ゼミノート #8

Algebraic-ness of Spaces and Stacks

七条彰紀

2019年1月12日

目次

1	Fiber Product	1
2	Diagonal Map	5
3	Local Property of Scheme/Morphism of Them	5
4	Algebraic Space	7
4.1	Representable Ones	7
4.2	Definition of Algebraic Space	8
4.3	Properties of Algebraic Space/Morphism of Algebraic Spaces	8
5	Algebraic Stack	10
5.1	Representable Ones	11
5.2	Definition of Algebraic Stack	11
5.3	Properties of Algebraic Stack/Morphism of Algebraic Stacks	12

affine scheme, scheme. algebraic space, algebraic stack という貼り合わせの連なりを意識した定義をした後、algebraic stackが scheme の貼り合わせとして定義できることを示す。algebraic space と algebraic stack の定義は全く平行に行われる。そのことが分かりやすい記述を志向する。

1 Fiber Product

命題 1.1

任意の site :: \mathbf{C} について、 \mathbf{C} 上の sheaf の圏 $\mathbf{Shv}(\mathbf{C})$ は fiber poduct を持つ.

(証明). 二つの射 $\mathcal{F} \to \mathcal{H}, \mathcal{G} \to \mathcal{H}$ をとる.

$$\mathbf{C} \ni U \mapsto \mathcal{F}(U) \times_{\mathcal{H}(U)} \mathcal{G}(U)$$

とすれば、これは fiber product となる.

 ${\bf B}$:: category とする. この時, ${\bf Fib}^{\rm bp}({\bf B})$ は以下のような圏であった.

Objects: fibered categories over B.

Arrows: base-preserving natural transformation.

新たに圏 CFG(B) を以下のように定義する.

Objects: categories fibered in groupoids(CFG) over B.

Arrows: base-preserving natural transformation.

重要なのは次の存在命題である.

命題 1.2 ([3] p.10)

任意の圏 C について, $Fib^{bp}(B)$ と CFG(B) は fibered product を持つ.

(証明). $\mathbf{Fib}^{\mathrm{bp}}(\mathbf{B})$ の射 $F: \mathfrak{X} \to \mathfrak{X}$ と $F: \mathfrak{Y} \to \mathfrak{X}$ をとり, F, G の fiber product を実際に構成する.

■圏 P の構成 圏 P を以下のように定義する.

Objects: 以下の4つ組

- (i) $b \in \mathbf{B}$,
- (ii) $x \in \mathfrak{X}(b)$,
- (iii) $y \in \mathcal{Y}(b)$,
- (iv) \mathfrak{T} の恒等射上の同型射 $\alpha: Fx \to Gy$.

Arrows:

射 $(b,x,y,\alpha) \to (b',x',y',\alpha')$ は,二つの射 $\phi_{\mathfrak{X}}\colon x\to x',\phi_{y}\colon y\to y'$ であって以下を満たすもの: $\phi_{\mathfrak{X}},\phi_{y}$ は同じ射 $b'\to b$ 上の射で,以下の可換図式を満たすもの.

$$Fx \xrightarrow{\alpha} Gy$$

$$F\phi_x \downarrow \qquad \qquad \downarrow G\phi_y$$

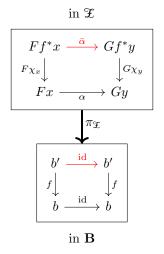
$$Fx' \xrightarrow{\alpha'} Gy'$$

■Cartesian Lifting in P. この圏は π : $(b, x, y, \alpha) \mapsto b$ によって fibered category と成る. $f: b' \to b$ の $\xi = (b, x, y, \alpha)$ に関する Cartesian Lifting :: $f^*\xi \to \xi$ は次のように定義される.

$$\chi_{\xi} = (f^*x \xrightarrow{\chi_x} x, f^*y \xrightarrow{\chi_y} y) \colon f^*\xi = (b', f^*x, f^*y, \bar{\alpha}) \to \xi.$$

ここで χ_x : $f^*x \to x$ は f の x に関する Cartesian Lifting である. χ_y も同様. さらに $\bar{\alpha}$ は以下の Triangle Lifting で得られる射である^{†1}.

 $f^*\alpha: f^*Fx \to f^*Gy$ とは異なる.同型 $Ff^*x \to F^*Fx$, $Gf^*y \to f^*Gy$ と $f^*\alpha: Fx \to Gy$ を合成しても $\bar{\alpha}$ は得られる.



fibered category の間の射は cartesian arrow を保つので $F\chi_x$, $G\chi_y$ も cartesian. したがって Triangle Lifting が出来る. $\bar{\alpha}$ が同型であることは Triangle Lifting の一意性を用いて容易に証明できる. また, この可換図式から χ_{ξ} が ${\bf P}$ の射であることも分かる.

■ $\mathfrak{X}, \mathcal{Y}, \mathfrak{Z}$ が category fibered in groupoids(CFG) ならば P も CFG $\mathfrak{X}, \mathcal{Y}, \mathfrak{Z}$ が CFG ならば P も CFG となる. 実際, $\phi_{\mathfrak{X}} \colon x \to x'$ と $\phi_{\mathcal{Y}} \colon y \to y'$ の両方が cartesian ならば $(\phi_{\mathfrak{X}}, \phi_{\mathcal{Y}}) \colon (b, x, y, \alpha) \to (b', x', y', \alpha')$ は cartesian である.

■P からの射影写像. 定義から明らかに $\operatorname{pr}_1\colon \mathbf{P}\to \mathfrak{X}, \operatorname{pr}_2\colon \mathbf{P}\to \mathcal{Y}$ が定義できる. 射の定義にある可換図 式は,以下の A が natural transformation であることを意味している.

$$A: \qquad F \operatorname{pr}_1 \qquad \to \qquad G \operatorname{pr}_2 \\ (F \operatorname{pr}_1)((b, x, y, \alpha)) = Fx \quad \mapsto \quad \alpha(Fx) = \alpha((F \operatorname{pr}_1)((b, x, y, \alpha)))$$

A が base-preserving であることは α が恒等射上のもの (i.e. $\pi_{\mathfrak{T}}(\alpha)=\mathrm{id}$) であることから,isomorphism であることは α が同型であることから示される.

■P:: fiber product. 今, $\mathcal{W} \in \mathbf{Fib}^{\mathrm{bp}}(\mathbf{B})$ と射 $S \colon \mathcal{W} \to \mathcal{X}, T \colon \mathcal{W} \to \mathcal{Y}$ 及び base-preserving isomorphism :: $\delta \colon FS \to GT$ をとる. base-preserving なので,任意の $w \in \mathcal{W}$ について $\pi_{\mathcal{I}}(FS(w)) = \pi_{\mathcal{I}}(GT(w))$. そこで次のように関手が定義できる.

$$H:$$
 \mathcal{W} \rightarrow \mathbf{P} Object w \mapsto $(\pi_{\mathfrak{T}}(FS(w)), Sw, Tw, \delta_w)$ Arrow $[\phi: w \rightarrow w']$ \mapsto $(S\phi: Sw \rightarrow Sw', T\phi: Tw \rightarrow Tw')$

このように置くと, $S=\operatorname{pr}_1H,T=\operatorname{pr}_2H$ となる.逆に $S\cong\operatorname{pr}_1H',T\cong\operatorname{pr}_2H'$ となる関手 $H'\colon \mathcal{W}\to\mathbf{P}$ は H と同型に成ることが直ちに分かる.

注意 1.3

session4 命題 4.5 より、CFG の恒等射上の射は同型射である. したがって $\alpha\colon Fx\to Gy$ に課せられた条件 は、 $\mathfrak Z$ が CFG ならば一つしか無い.

例 1.4

representable fibered category \mathcal{O} fiber product.

sheaf に対応する fibered category の fiber product $\int \mathcal{F} \times_{\int \mathcal{H}} \int \mathcal{G}$ に対応する sheaf は, sheaf の fiber product に対応する.

$$\left(\int \mathcal{F} \times_{\int \mathcal{H}} \int \mathcal{G}\right)(-) = \mathcal{F} \times_{\mathcal{H}} \mathcal{G} \quad \in \mathbf{Shv}(\mathbf{C})$$

我々が扱うのは stack であるから, stack という性質が fiber product で保たれていて欲しいが, 果たしてそうなる.

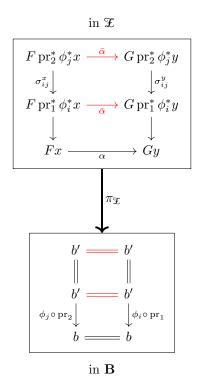
命題 1.5 ([5] Prop 4.6.4)

 $\mathfrak{X}, \mathcal{Y}, \mathfrak{X}$:: stack over \mathbf{C} とし、morphism of stacks :: $F: \mathfrak{X} \to \mathfrak{X}, G: \mathcal{Y} \to \mathfrak{X}$ をとる. この時、F, G についての fiber product :: $\mathfrak{X} \times_{\mathfrak{X}} \mathcal{Y}$ は stack である.

したがって結局 $\mathbf{Fib}^{\mathrm{bp}}(\mathbf{B})$, $\mathbf{CFG}(\mathbf{B})$ と、stack の圏及び stack in groupoids の圏は fiber product を持つ. 我々が実際に扱うのは stack in groupoids である.

(証明). $\mathcal{P} = \mathfrak{X} \times_{\mathfrak{L}} \mathcal{Y}$ とおく. $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i \colon U_i \to U\} \in \mathrm{Cov}(U)$ を任意にとり, $\epsilon_{\mathcal{U}} \colon \mathcal{P}(U) \to \mathcal{P}(\mathcal{U})$ を計算する.

 $\blacksquare \epsilon_{\mathcal{U}}(\xi)$. $\xi = (b, x, y, \alpha)$ をとり、 $\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi)$ を計算する. まず $\{\phi_i^* \xi\}_i$ は既に詳しく説明した. 注意が必要なのは同型 $\sigma_{ij}\colon \operatorname{pr}_2^* \phi_i^* \xi \to \operatorname{pr}_1^* \phi_i^* \xi$ である. 可換性は以下の図式から分かる.



 $\blacksquare \epsilon_{\mathcal{U}}(\kappa)$. (TODO)

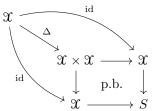
2 Diagonal Map

注意 2.1

以降はS :: scheme をとり、 $\mathbf{C} = \mathrm{ET}(S)$:: big etale site over S 上の sheaf あるいは stack in groupoids のみを考える.

定義 2.2 (Diagonal Map)

sheaf あるいは stack in groupoids over S:: \mathfrak{X}/S (すなわち射 $\mathfrak{X} \to S$) の diagonal map :: Δ とは,以下の可換図式に収まる射のことである.



3 Local Property of Scheme/Morphism of Them

定義 **3.1** ([2] p.100, Local Property for the topology.)

S :: scheme とし、(Sch/S) 上の site :: C を考える. X,Y :: scheme とし、 $\{\phi_i\colon X_i\to X\}\in \mathrm{Cov}(X), \{\psi_i\colon Y_i\to Y\}\in \mathrm{Cov}(Y)$ を任意に取る.

- (i) P を scheme の性質とする. P が local for the topology であるとは,以下が成り立つということ: X が P であることは,全ての U_i が P であることと同値.
- (ii) P を scheme の射の性質とする. P が local on the source であるとは,以下が成り立つということ: $f: X \to Y$ が P であることは,全ての $f \circ \phi_i$ が P であることと同値.
- (iii) P を scheme の射の性質とする. P が local on the target であるとは,以下が成り立つということ: $f\colon X\to Y$ が P であることは,全ての $\operatorname{pr}_2\colon X\times_Y Y_i\to Y_i$ が P であることと同値.
- (iv) ([5] 5.1.3) P を scheme の射の性質とする. 以下が全て成り立つ時, P は stable であると呼ばれる.
 - 任意の同型は P.
 - Pは、射の合成で保たれる。
 - P は、任意の \mathbb{C} の射による base change で保たれる.
 - local on the target.
- (v) ([3] 2.5) P を scheme の射の性質とする. 以下が全て成り立つ時, P は local on the source and target であると呼ばれる. : 任意の以下の可換図式について, f が P であることは f' が P であることと同値.

ただし $X' \to Y' \times X, Y' \to Y$ は、Artin (resp. DM) stack を考えているならば smooth (resp. etale) and surjective である.

例 3.2 (i) local on the source and target である性質の例: flat, smooth, etale, unramified, normal, locally of finite type, locally of finite presentation.

注意 3.3

"local on the source and target"は、algebraic space、algebraic stack の射について性質を定めるときに必要に成る.この定義は文献に寄って数種類ある.私が知る限りのものを以下に列挙する.

SP

[6] Tag 04QZ.

DM

X,Y を scheme とし、 $\{\phi_i\colon X_i\to X\}\in \mathrm{Cov}(X), \{\psi_i\colon Y_i\to Y\}\in \mathrm{Cov}(Y)$ を任意の cover とする、 $\{f_i\colon X_i\to Y_i\}$ を以下の可換図式を満たす射の族とする.

$$\begin{array}{ccc} X_i & \stackrel{\phi_i}{\longrightarrow} & X \\ f_i \downarrow & & \downarrow f \\ Y_i & \stackrel{\psi_i}{\longrightarrow} & Y \end{array}$$

この時、射fがPであることと、全ての射 f_i がPであることは同値。[2], p.100 より.

DM'

以下の scheme の可換図式が成立しているとする.

$$X' \longrightarrow X$$

$$f' \downarrow \qquad \qquad \downarrow f$$

$$Y' \longrightarrow Y$$

ただし $X' \to X, Y' \to Y$ は cover である. この時、射 f が P であることと、射 f' が P であることは 同値. [6] Tag 04R4 や

ST

local on the source 2 local on the target.

ST+

次の5条件を合わせたもの.

- 同型について成立する,
- stable under composition,
- stable under base change,
- local on the source,
- local on the target.

[5] Def 5.1.3, 5.4.11 で採用されている.

La

X,Y:: scheme とし、射 $Y'\to Y,X'\to Y'\times X$ を cover とする. この時、 $f\colon X\to Y$ と合わせると次の可換図式が得られる.

$$X' \xrightarrow{f'} Y' \times X \xrightarrow{p.b.} X$$

$$\downarrow p.b. \qquad \downarrow f$$

この時, f が P であることは f' が P であることと同値. [4] p.33, [3] p.16 で採用されている.

La'

X,Y:: scheme とし、射 $Y'\to Y, X'\to X$ を cover とする. この時、 $f\colon X\to Y$ と合わせると次の可換図式が得られる.

$$X' \times_Y Y' \longrightarrow Y'$$
 $f' \downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow$
 $X' \longrightarrow X \xrightarrow{f} Y$

この時, f が P であることは f' が P であることと同値.

強弱関係は次の通り.

 $SP \Longrightarrow DM \Longrightarrow ST$ は [6] Tag 04R4 による. $SP \Longrightarrow DM \Longrightarrow ST$, $DM' \Longrightarrow La \Longrightarrow La'$ のそれぞれの \Longrightarrow は逆が成り立たないことも分かっている. また, DM' と local on the target を合わせたものは DM と 同値である.

我々としては、「便利な性質」をもち、かつ弱い定義を取りたい.後に示すとおり、Laを仮定すれば十分「便利」である.

4 Algebraic Space

4.1 Representable Ones.

定義 4.1 (Representable Space)

stack :: $\mathfrak X$ が representable (by scheme) であるとは、ある scheme :: X が存在し、 $\mathfrak X\cong X=\mathbf{Sch}/X$ であるということ.

定義 4.2 (Representable Morphism of Spaces)

morphism of spaces :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が representable (by scheme) であるとは、任意の S-scheme :: $U \succeq \mathbf{C}$ の 射 $U \to \mathcal{Y}$ について、fiber product :: $U \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X}$ が representable (by scheme) であるということ.

命題 4.3 (Representable Diagonal Morphism)

 \mathcal{F} :: stack on $\tau(S)$ 以下は同値である.

- (i) $\Delta: \mathcal{X} \to \mathcal{X} \times_S \mathcal{X}$ は表現可能.
- (ii) 任意の scheme :: U と射 $U \to \mathcal{X}$ について, $U \to \mathfrak{A}$:: representable.
- (iii) 任意の scheme :: U, V と射 $u: U \to \mathcal{X}, v: V \to \mathcal{X}$ について $U \times_{\mathcal{X}} V$:: representable.

(証明). (ii) ⇔ (iii) は representable morphism の定義から直ちに分かる. (i) ⇔ (iii) は以下が pullback

diagram であることから分かる.

$$U \times_{\mathcal{X}} V \xrightarrow{\qquad} U \times_{S} V$$

$$\downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow u \times v$$

$$\mathcal{X} \xrightarrow{\qquad \Delta \qquad} \mathcal{X} \times_{S} \mathcal{X}$$

(TODO: もう少し詳しく.)

定義 4.4 (Property of Representable Spaces/Morphism of Them)

- (i) \mathcal{P} を scheme の性質で local for etale topology であるものとする. この時, representable space :: \mathcal{X} が性質 \mathcal{P} を持つとは, \mathcal{X} を represent する scheme が性質 \mathcal{P} を持つということである.
- (ii) \mathcal{P} を morphism of schemes の性質で local on the target かつ stable under base change であるものとする. この時, representable morphism of spaces :: $f \colon \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が性質 \mathcal{P} を持つとは, 任意の $U \in \mathbf{C}$ と射 $U \to \mathcal{Y}$ について, $\operatorname{pr} \colon \mathcal{X} \times_{\mathcal{Y}} U \to U$ (に対応する morphism of algebraic schemes) が性質 \mathcal{P} を持つということである.

4.2 Definition of Algebraic Space

定義 4.5 (Algebraic Space)

S:: scheme とし、 \mathcal{X} を space over S (すなわち big etale site $\mathrm{Et}(S)$ 上の sheaf) とする. \mathcal{X} が algebraic であるとは、次が成り立つということである.

- (i) diagonal morphism :: $\Delta \colon \mathcal{X} \to \mathcal{X} \times_S \mathcal{X} \not \! \mathbb{N}$ representable $\mathfrak{C}\mathfrak{B}\mathfrak{S}$.
- (ii) scheme :: U からの etale surjective morphism :: $U \to \mathcal{X}$ が存在する.

Algebraic space の射は space としてのものである.

以下では scheme の性質と scheme の射の性質を algebraic space へ拡張する.

4.3 Properties of Algebraic Space/Morphism of Algebraic Spaces

定義 4.6 (Property of Algebraic Spaces)

- (i) \mathcal{P} を scheme の性質であって、local for etale topology であるものとする.この時、algebraic stack :: \mathcal{X} が性質 \mathcal{P} を持つとは、 \mathcal{X} のある atlas が性質 \mathcal{P} を持つということである.
- (ii) algebraic stack :: $\mathcal X$ が quasi-compact $^{\dagger 2}$ であるとは、 $\mathcal X$ のある atlas が性質 $\mathcal P$ を持つということである.

定義 4.7 (Property of Morphism of Algebraic Spaces)

ア を morphism of scheme の性質であって, local on the source and target であるものとする. 以下の可換

^{†2} 明らかに、これは local for etale topology ではない.

図式で、 $V \to \mathcal{Y}, U \to V \times \mathcal{X}$ は cover であるとする.

$$U \longrightarrow V \times \mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{X}$$

$$\downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow^{f}$$

$$V \longrightarrow \mathcal{Y}$$

$$(PM)$$

この時、 $\underline{\text{morphism of algebraic spaces}}$:: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が性質 \mathcal{P} を持つとは、この可換図式にある f' (に対応する $\underline{\text{morphism of scheme}}$) が性質 \mathcal{P} を持つということである.

補題 4.8

- (a) \mathcal{X} を representable space とし、P を algebraic space の性質とする。f が algebraic space として性質 P を持つことと、representable space として性質 P を持つことは同値。
- (b) $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ を representable morphism とし、P を algebraic space の射の性質とする。f が algebraic space の射として性質 P を持つことと、representable morphism として性質 P を持つことは同値。

(証明). \mathcal{X} が scheme :: X で表現されるならば $X \to \mathbf{Sch}/X \cong \mathcal{X}$ が atlas なので (a) が成立する.

以下の図式で id: $V \to V$ が etale surjective なので $U \to V \times \mathcal{X}$ も etale surjective である. また representable morphism の性質は, scheme の射の性質として local on the target であるものに限っていた. したがって (b) が成立する.

$$U \longrightarrow V \times \mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{X}$$

$$f'' \downarrow \quad \text{p.b.} \quad \downarrow f' \quad \text{p.b.} \quad \downarrow f$$

$$V \longrightarrow V \longrightarrow \mathcal{Y}$$

補題 4.9

- (a) P を scheme の性質で local for etale topology なものとする.
 - 一つの etale surjective morphism :: $U \to \mathcal{X}$ について U が性質 P を持つならば,

任意の etale surjective morphism :: $U \to \mathcal{X}$ について U が性質 P を持つ.

(b) P を morphism of scheme の性質であって、local on the source and target であるものとする. -つの $V \to \mathcal{Y}, U \to U \times \mathcal{X}$ の組み合わせについて図式 (PM) の f' が性質 P を持つならば、 任意の $V \to \mathcal{Y}, U \to U \times \mathcal{X}$ の組み合わせについて図式 (PM) の f' が性質 P を持つ.

(証明). [6] Tag 06FM

補題 4.10

P を algebraic space の射の性質とする.

- (a) P が scheme の射の性質として stable under base change ならば、algebraic space の射の性質として も stable under base change.
- (b) P が scheme の射の性質として stable under composition ならば, algebraic space の射の性質として も stable under composition.

(証明). (a) は [6] Tag 0CII を参考にすれば良い.

(b) を示す. 準備として次を示す.

主張 4.11

U :: scheme とする. $f: U \to \mathcal{X}, g: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が etale, surjective ならば、合成 $g \circ f: U \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ も etale, surjective である.

(証明). etale, surjective は scheme の射の性質として stable under base change かつ stable under composition であることに注意する.

 $V \to \mathcal{Y}, W \to V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X}$ を scheme からの etale surjective (e.s.) 射とする. この時 fiber product を組み合わせて以下の可換図式が得られる. (pullback lemma を暗黙のうちに用いている.)

$$W \times_{\mathcal{X}} U \longrightarrow V \times_{\mathcal{X}} U \longrightarrow U$$

$$\downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow f$$

$$W \longrightarrow V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{X}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow g$$

$$V \longrightarrow V$$

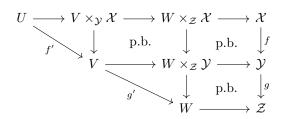
この時,以下のように $W \times U \to W \to V \wedge W \times U \to V \times U$ が e.s. であることが示せる.

- $f: U \to \mathcal{X} :: \text{e.s.} \ \mathcal{D} \to \text{representable} \implies W \times U \to W :: \text{e.s.}$
- $\mathcal{X} \to \mathcal{Y} :: \text{e.s.} \implies W \to V :: \text{e.s.}$
- $W \times U \to W, W \to V :: \text{e.s.} \implies W \times U \to W \to V :: \text{e.s.}$
- $W \to V \times \mathcal{X}$:: e.s. \mathcal{Y} ? representable $\implies W \times U = W \times (V \times U) \to V \times U$:: e.s.

etale は local on the source な性質なので $V \times U \to V \times X \to V$ も etale. また surjective の圏論的な性質から surjective であることも分かる. この二つから, representable morphism :: $g \circ f \colon U \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ は e.s. である.

この主張を用いて (b) を示す.

etale surjective 射 :: $W \to \mathcal{Z}, V \to W \times \mathcal{Y}, U \to V \times \mathcal{X}$ から次の可換図式が得られる.



定義から g が P であることと g' が P であることは同値.また,主張から $W \to W \times \mathcal{Y} \to \mathcal{Y}$ は etale surjective 射である.したがって再び定義から,f が P であることと f' が P であることは同値.最後に, $U \to V \times \mathcal{X} \to W \times \mathcal{X}$ も etale surjective であるから, $g \circ f$ が P であることと $g' \circ f'$ が P であることは同値である.

5 Algebraic Stack

節 5.2 以外は algebraic space の節にある定義文を

- "Space" \rightarrow "Stack",
- "Scheme" \rightarrow "Algebraic Space"

と置換しただけで得られるので読み飛ばして構わない.

5.1 Representable Ones

定義 **5.1** (#Representable Stack)

stack :: $\mathfrak X$ が representable であるとは、ある algebraic space :: $\mathcal X$ が存在し、 $\mathfrak X\cong\mathcal X=\int\mathcal X$ であるということ.

定義 5.2 (#Representable Morphism of Stacks)

morphism of stacks :: $f: \mathfrak{X} \to \mathcal{Y}$ が representable であるとは、任意の S-algebraic space :: $U \succeq \mathbf{C}$ の射 $U \to \mathcal{Y}$ について、fiber product :: $U \times_{\mathcal{Y}} \mathfrak{X}$ が representable であるということ.

補題 5.3 (#)

 \mathfrak{X} :: stack in groupoids on \mathbb{C} とする. 以下は同値である.

- (i) $\Delta: \mathfrak{X} \to \mathfrak{X} \times_S \mathfrak{X}$ は表現可能.
- (ii) 任意の algebraic space :: U と射 $U \to \mathfrak{X}$ について, $U \to \mathfrak{X}$:: representable.
- (iii) 任意の algebraic space :: $U, V \ge$ 射 $U \to \mathfrak{X}, V \to \mathfrak{X}$ について $U \times_{\mathfrak{X}} V$:: representable.

定義 5.4 (#Property of Representable Stacks/Morphism of Them)

- (i) \mathcal{P} を scheme の性質で local for etale topology であるものとする. この時, representable stack :: \mathfrak{X} が性質 \mathcal{P} を持つとは, \mathfrak{X} を represent する algebraic space が性質 \mathcal{P} を持つということである.
- (ii) \mathcal{P} を morphism of scheme の性質で local on the target かつ stable under base change であるものと する. この時, representable morphism of stacks :: $f \colon \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が性質 \mathcal{P} を持つとは, 任意の $U \in \mathbf{C}$ と射 $U \to \mathcal{Y}$ について, pr: $\mathcal{X} \times_{\mathcal{Y}} U \to U$ (に対応する morphism of algebraic algebraic spaces) が 性質 \mathcal{P} を持つということである.

5.2 Definition of Algebraic Stack

定義 5.5 (Algebraic Stack (Artin Stack))

S :: algebraic space とし、 $\mathfrak X$ を stack over S (すなわち big etale site $\mathrm{Et}(S)$ 上の sheaf) とする、 $\mathfrak X$ が algebraic であるとは、次が成り立つということである。

- (a) diagonal morphism :: Δ : $\mathfrak{X} \to \mathfrak{X} \times_S \mathfrak{X}$ が representable である.
- (b) algebraic space :: U からの $\underline{\text{smooth}}$ surjective morphism :: $U \to \mathfrak{X}$ が存在する.

射は stack in groupoids としての射である.

補題 (5.3) から, 二つの条件は意味を成す.

定義 5.6 (#Deligne-Mumford(DM) Stack)

S :: algebraic space とし、 $\mathfrak X$ を stack over S (すなわち big etale site $\mathrm{Et}(S)$ 上の sheaf) とする、 $\mathfrak X$ が algebraic であるとは、次が成り立つということである。

- (b) algebraic space :: U からの<u>etale</u> surjective morphism :: $U \to \mathfrak{X}$ が存在する.

射は stack in groupoids としての射である.

以下, Algebraic Stack と言った時は DM か Artin かを限定しない.

注意 5.7

我々が採用する algebraic stack の定義は、しばしば Artin stack の定義として参照される.

歴史的には、DM stack の方が先に定義された.これは 1969 年の論文 [2] でのことである.動機は algebraic stack \bar{M}_g を通して,coarse moduli scheme の性質を調べることだった.しばしば DM stack の定義として $\Delta\colon \mathfrak{X}\to \mathfrak{X}\times \mathfrak{X}$ は quasi-compact かつ separated であるものとする.しかしこれは [2] では要求されて居ない.

一方, Artin stack は 1974 年の論文 [1] で DM stack の一般化として定義された. 我々が扱う Algebraic stack の定義 (したがって多くの文献での "Artin stack"の定義) は、原論文のものとは異なる.

5.3 Properties of Algebraic Stack/Morphism of Algebraic Stacks

以下では scheme の性質と scheme の射の性質を algebraic stack へ拡張する.

定義 5.8 (#Property of Algebraic Stack)

- (i) \mathcal{P} を scheme の性質であって、local for etale topology であるものとする.この時、algebraic stack :: \mathfrak{X} が性質 \mathcal{P} を持つとは、 \mathfrak{X} のある atlas が性質 \mathcal{P} を持つということである.
- (ii) algebraic stack :: $\mathfrak X$ が quasi-compact $^{\dagger 3}$ であるとは、 $\mathfrak X$ のある atlas が性質 $\mathcal P$ を持つということである.

定義 5.9 (#Property of Morphism of Algebraic Stack)

 \mathcal{P} を morphism of scheme の性質であって、local on the source and target であるものとする. 以下の可換図式で、 $V \to \mathcal{Y}, U \to V \times \mathfrak{X}$ は cover であるとする.

$$U \longrightarrow V \times \mathfrak{X} \longrightarrow \mathfrak{X}$$

$$\downarrow \qquad \text{p.b.} \qquad \downarrow^{f}$$

$$V \longrightarrow \mathcal{Y}$$

$$(PM)$$

この時、 $\underline{\text{morphism of algebraic spaces}}$:: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が性質 \mathcal{P} を持つとは、この可換図式にある f' (に対応 する morphism of scheme) が性質 \mathcal{P} を持つということである.

補題 5.10 (#)

^{†3} 明らかに、これは local for etale topology ではない.

- (i) \mathcal{X} を representable stack とし、P を algebraic stack の性質とする。f が algebraic stack として性質 P を持つことと、representable stack として性質 P を持つことは同値。
- (ii) $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ を representable morphism とし、P を algebraic stack の射の性質とする。f が algebraic stack の射として性質 P を持つことと、representable morphism として性質 P を持つことは同値。

補題 5.11 (#)

- (i) P を scheme の性質で local for etale topology なものとする. 一つの etale surjective morphism :: $U \to \mathfrak{X}$ について U が性質 P を持つならば、 任意の etale surjective morphism :: $U \to \mathfrak{X}$ について U が性質 P を持つ.
- (ii) P を morphism of scheme の性質であって,local on the source and target であるものとする. 一つの $V \to \mathcal{Y}, U \to U \times \mathfrak{X}$ の組み合わせについて図式 (PM) の f' が性質 P を持つならば,任意の $V \to \mathcal{Y}, U \to U \times \mathfrak{X}$ の組み合わせについて図式 (PM) の f' が性質 P を持つ.

(証明). [6] Tag 06FM

補題 5.12 (#)

P を algebraic stack の射の性質とする.

- (i) P が scheme の射の性質として stable under base change ならば, algebraic stack の射の性質として も stable under base change.
- (ii) P が scheme の射の性質として stable under composition ならば, algebraic stack の射の性質として も stable under composition.

(証明). algebraic space の場合の繰り返しである.

参考文献

- [1] M. Artin. Versal deformations and algebraic stacks. *Inventiones mathematicae*, Vol. 27, No. 3, pp. 165–189, Sep 1974.
- [2] Pierre Deligne and David Mumford. The irreducibility of the space of curves of given genus. *Publications Mathématiques de l'Institut des Hautes Études Scientifiques*, Vol. 36, No. 1, pp. 75–109, Jan 1969.
- [3] Tomàs L. Gòmez. Algebraic stacks. https://arxiv.org/abs/math/9911199v1.
- [4] G. Laumon and L. Moret-Bailly. *Champs algébriques*. Ergebnisse der Mathematik und ihrer Grenzgebiete. 3. Folge (A Series of Modern Surveys in Mathematics). Springer Berlin Heidelberg, 1999.
- [5] Martin Olsson. Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications). Amer Mathematical Society, 4 2016.
- [6] The Stacks Project Authors. Stacks Project. https://stacks.math.columbia.edu, 2018.